

全林研会長賞

鹿児島県

種子島しきみ生産組合

所在地 > 鹿児島熊毛郡南種子島町

設立 > 平成12年4月

会員 > 男39人 女1人 年齢 > 45歳～74歳 平均58歳

主なプロジェクト

- ◆ シキミ生産・流通による種子島ブランドの確立

1. 地域の概要

熊毛郡南種子町は、鹿児島県種子島の南端に位置し、ロケット発射基地があるところとして有名な町です。

「大空に打上げせるロケットは、島の南の果てに立ちたり」昭和天皇が御来島の想いを御製の句に詠まれたことも光栄な出来事でありました。

また、1543年南端の門倉岬にポルトガル人が漂着し、鉄砲伝来の地として歴史的にも知られております。

人口は約6,000人で、面積は110km²、南北に12km、東西に11kmにわたり、年間の平均気温は20℃と温暖なところです。

標高は一番高い所で200mと低いですが、起伏の多い地形で、中央部から西部にかけての河川流域で早場米も生産され、温暖な気候を生かした農業中心の町であり、これら地域の特性を生かして我々のシキミ生産も行っています。



シキミ栽培畑

2. 組合発足の経緯

平成8年度に県本土の大隅半島のシキミ生産者が来島し、温暖な気候を生かした枝物生産の良さを呼びかけたのがはじまりで、その魅力を実感し生産

に取り組んだのがきっかけでした。

最初は6名の生産者で自力栽培を始め、その後、組織的・計画的な取組の必要性を認識し、平成12年4月に「南種子町花木生産組合」を発足しました。

発足当初の組合員数は16名でした。

発足後は積極的に補助事業等を活用して栽培面積を年々拡大してきました。

現在では、約18haの圃場を有しており、組合員数も40名となっています。

また、今後一層のブランド化を推進するため、昨年9月に組合名を「種子島しきみ生産組合」に改称しました。

3. 組合の組織体制

組合組織の体制については、共同作業で造成した圃場を合理的に運営管理する目的で、枝物管理責任者を組合長が兼務することとしており、顧問、副組合長、会計、監事のほか出荷先と調整を担う出荷担当を2名配置しています。

また、圃場が9つの団地に分かれているので、各団地ごとに9名の理事を配置し、理事会を通して各組合員への指示伝達システムを確保しています。

4. 出荷方法及び出荷状況

当組合が出荷している主な規格については、ほとんどがククリと呼ばれる小束です。1本の長さを45～60cmに揃え、それらを束ねて重さを1束あたり200～350gにしてください。

ククリは墓前に2束1対で供えられるもので、生花店や市場により受け入れる規格が異なります。ほかにも上物と呼ばれる、長い枝を10kg単位で束にしたものもあります。

主な出荷先は、関西方面の生花店、葬祭場、花き市場です。

トレーサビリティを確保するため、生産者ごとにナンバーを記載し出荷しています。



ククリ

昨年度の生産量が43tで、販売額が2,200万円となっており、5年前と比較すると、生産量・販売額ともに2倍以上に伸びてきています。

なお、関西方面の祭壇等はシキミの使用頻度が高く、引き合いが強いため、年々生産量は増加しているものの、まだまだ需要に追いつかないのが現状です。

5. これまでの対策と課題

種子島は海に囲まれており風が強いことから、低木仕立てで管理するとともに、防風垣等を設けるなど、各組合員の工夫の跡が多く見られます。

また、葉・枝物の品質を確保するためには、病害虫対策は欠かせないことから、毎年組合員に呼びかけて薬剤の効果的な使用方法などをテーマにした講習会を開催しています。

さらには、離島ということで輸送に時間を要することから、少しでも長い間品質を保持できるよう、平成23年度に県と町の補助事業を活用し、集出荷施設の整備と併せて保冷施設を導入しました。

このような中で、今後ブランドの確立へ向けてさらなる取組が必要と考えられるのが優良品種の改良です。

当組合のシキミ植栽については、これまで実生苗を中心に行ってきたことから、品種にバラツキがあり、単木あたりの収量がなかなか上がらない状況にあります。

シキミは挿し木が容易であるため、優良品種を選抜して苗木を育て、現在実生苗で栽培している不良な品種と植え替えていく必要があります。

そのためには、かなりの時間とコストを要することから、一層の覚悟を持って取り組んでいかなければなりません。

6. ブランド化に向けた今後の展開方向

種子島ブランドの確立へ向けて、当組合の今後の展開方向を整理してみました。

まず1点目は商品管理という点で、適期の薬剤防除を徹底していく必要があります。各団地の理事を通じて、薬剤散布の時期や使用薬剤の周知徹底を

図っていききたいと思います。

2点目は、品質向上に向けた台木の改良です。

実生苗が多い当組合の圃場は、生育のバラツキが大きく、需要に合った量がまとまりにくい状況です。優良品種の植え替えにより、需要に対応した出荷体制を構築していききたいと思います。

3点目は、生産性向上に向けた台木の整枝剪定です。

少ない労力で最大限の利益を得るためには、台木の管理が重要です。力枝を横に伸ばして、採取しやすい台木仕立てに努めてまいります。

4点目は、組合員それぞれの意識改革です。

安納芋やサトウキビとの兼業農家が多いため、農繁期には出荷担当が苦慮することもあります。ブランド化が確立されれば、基幹作物よりも必ず反収は増加するので、組合員一人一人の意識をより一層高めていききたいと思います。

5点目は生産地の規模拡大です。

遊休農地を積極的に活用し、島外の産地に負けないよう規模の拡大を図っていききたいと思います。

そして最後に6点目は、何と云っても担い手の育成確保です。

魅力ある仕事であれば若者も興味を示すはずですが、先陣を斬った我々が、いかに次世代に財産を残してやれるかがカギとなります。組合員一致団結して、専業者・後継者・新規就業者の確保に努めてまいります。



フォレスターネット 2015